

正統なソフトウェア品質エンジニアである ためにSQiP研究会に入るべき7つの理由

SQiP研究会運営小委員会副委員長

(早稲田大学／国立情報学研究所／システム情報)

鷺崎 弘宜



日本は優れた技術を持ちながら世界のスピードに追いついていない

世界に何を学び、日本のどの強みを伸ばすべきか

ソフト開発の人材づくりが重要

ソフトの総合的な品質評価が必要

データ+経験則
両方大事

世界を席巻するソフトウエアには何が必要なのか。その答えは、基礎から客層、現場、人材を評価し、力を高めようとする。2010年に開設したのがグローバルソフトウェアエンジニアリング研究所だ。「日本は優れた技術を持ちながら世界のスピードに追いついていない」

ローバルソフトウェアエンジニア

プログラマー、ゲームソフト、は研究テーマ

タに基づく困

にするのが同研究

だ。企業などか

研究員を招き、中

ネシア、マレーン

な国の学生も参加

ミング言語やソフト

利用、品質保証、開発マネジ

メント、工学教育を研究し、

15年にはソフトの総合的な品

質評価の枠組みを確立するた

めの調査研究を始めた。

現在のテーマの柱の一つが、

ソフト開発人材の基盤をつく

るプログラミング教育。政府

の考え方が大きく異なる。

世界に何を学び、日本のど

の強みを伸ばすべきかをテ

未来の開発者育成探る

研究所が重要な教材になると

みるのが、子どもが自ら学べ

る教育用ゲームソフトだ。

も20年度に小学校でプログラ

ミングを必修化する方針を打

ち出したが、詳しい教員がい

ないなど教える態勢が整って

いない場合も多い。そこで同

ソフトウエア開発

は工学データだけ

発者へのインタレ

になる経験則も

ある。開発現場に

どうまくいく」

たいいて失敗する

ターンがある。これ

付けて明確にすれば

発・運用の効率を高

つながらからだ。

ソフトを使うのも

ビジョン

宿で12日、教育イベントに

強いフジテレビキッズ(同・

港)と競技会を開く。絵や図

でプログラミングを直感的に

体験できる「Viscuit

(ビスケット)」など国内外

の6種類のソフトをそれぞれ

約30人の小学生が模擬授業で

使用。習熟度や扱いやすさ、

学習意欲への影響を調べる。

正統なエンジニアリング

知識・適格性の妥当
性をコミュニティで
判定できる環境

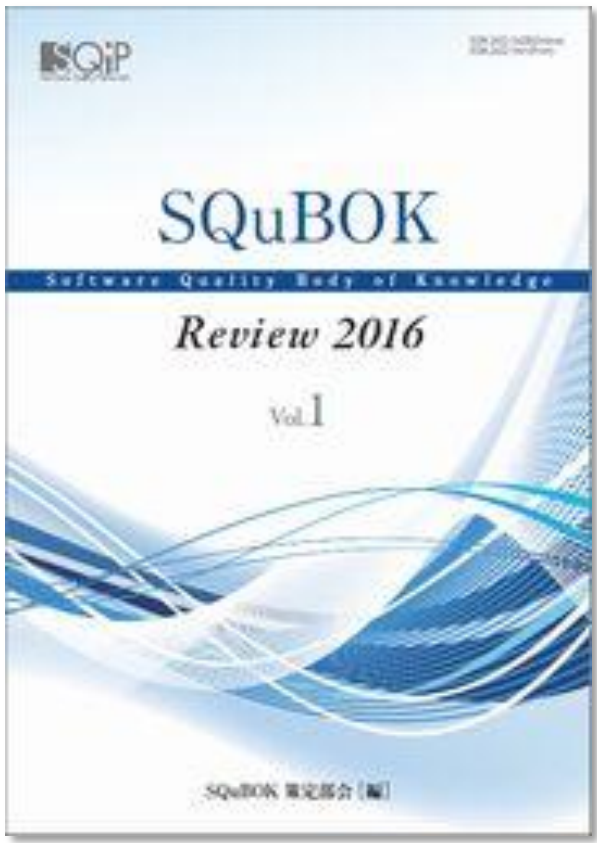
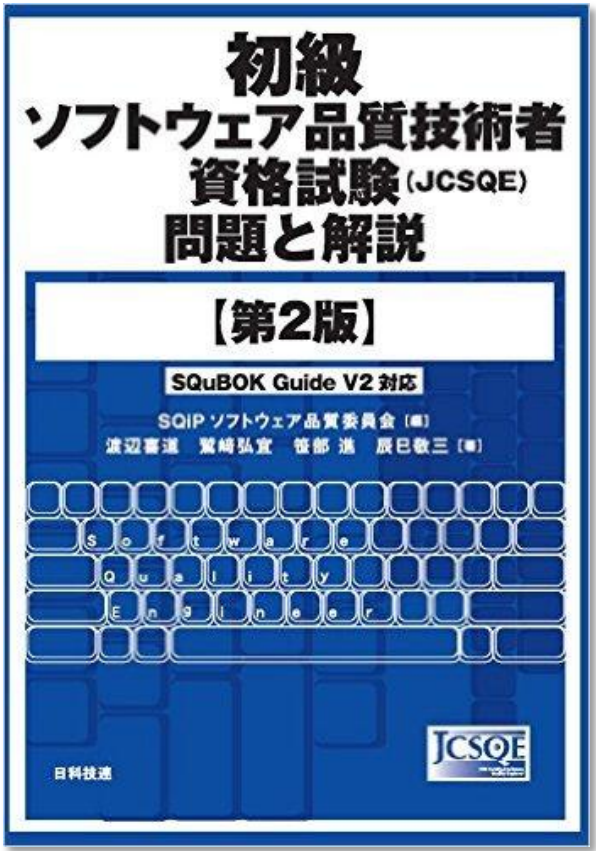
コミュニティで妥当と確
認される知識が科学的
基盤に基づく

職業人が果たす判断,
行為, 助言が, 社会で
実質的な価値を形成

理由1. プロフェッショナル コミュニティからの指導陣と特別講義

- 経験と専門知識
- 日本の品質管理、世界の最先端
- 相談のチャンス





理由2. 実証済みの品質知識体系に基づく学習・研究

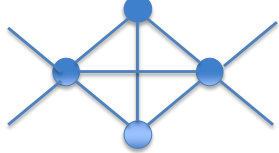
知識

プロフェッショナリズム

体系上のパターンや手法



知識の体系
SQuBOKなど



知識の島々



CMMI UML

アジャイル

直交表 メトリクス



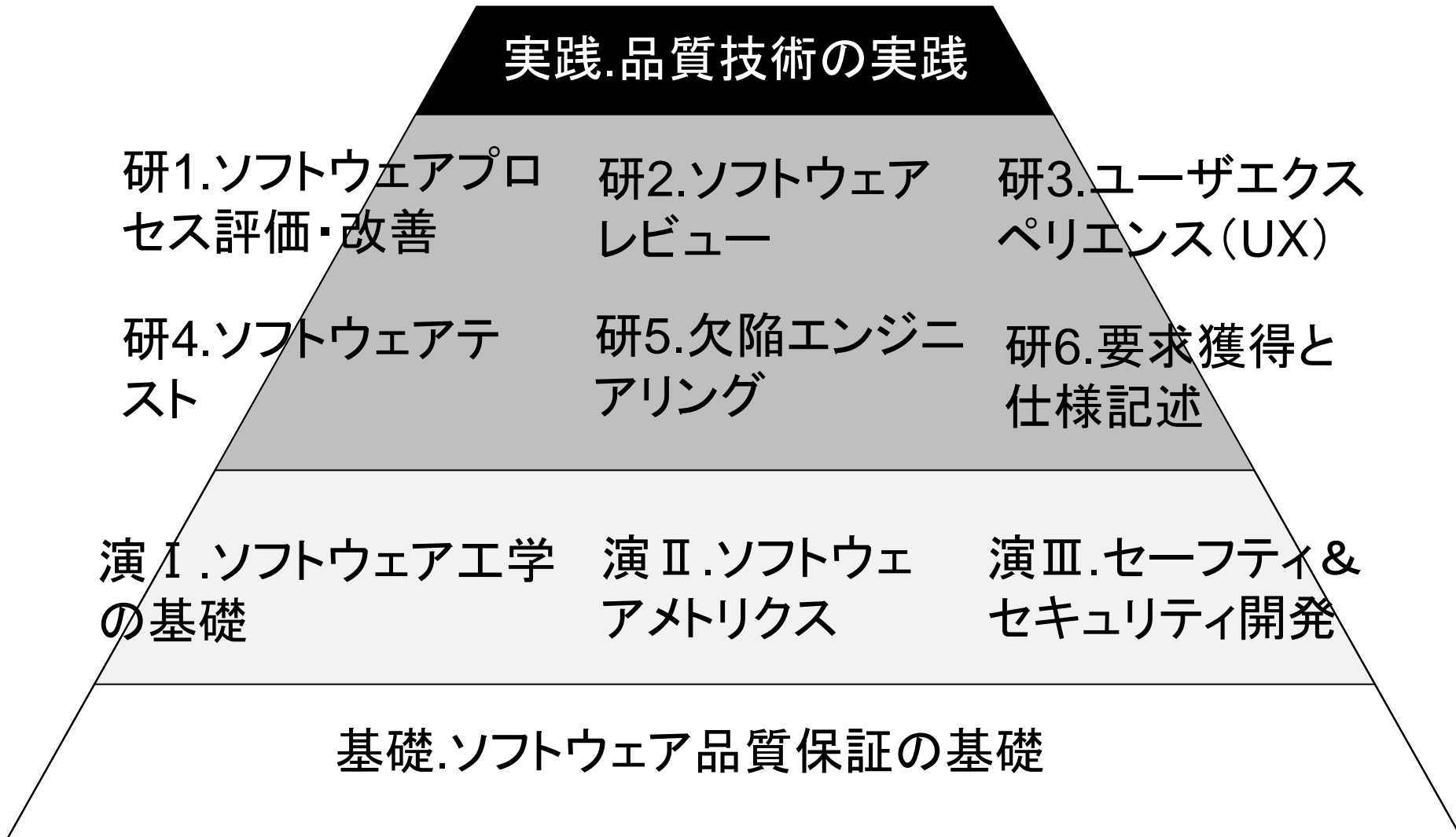
より良く、速く、幸せ

ベストプラクティスに裏打ちされた能力

遅く、リスクが高い

経験、ガイド

理由3. 取り組みと扱う領域の広さ



理由4. 1年間の取り組みと実践サポート

- 仮説、調査・実験・データ、検証
- 実践コース、「アフター」
- 卒業後の支援、複数年を経て指導側へ

5月 例会(特別講義、研究・演習・実践)

6月 例会

7月 合宿

9月 ソフトウェア品質シンポジウムSQiP

10月 例会

11月 例会

12月 例会

1月 例会

2月 成果発表会・表彰



理由5. 価値形成と知識体系構成 に向けたまとめと論文

- 論文執筆、発表
- 研究デザイン・論文講座
- SQiPシンポジウム、SQiPライブラリ

第1分科会 ソフトウェアプロセス評価・改善

プロセスは定着していますか Part3
～不具合事象に基づく標準プロセスへのフィードバック手法の提案～

Is the process firmly established? Part3
～Proposal of process improvement method based on product quality～

主査 副主査 研究員	三浦 邦彦 阪本 太志 相澤 武 有賀 一輝 小淵 一幸 坂部 誠之 田淵 一成 野口 和馬 宮川 研二 宮道 久浩	矢崎 純業(株) 東芝デジタルメディアエンジニアリング(株) (株)インテック (株)イクスアネックス セイコーエプソン(株) (株)シーイーシー ビジネスキューブ・アンド・パートナーズ(株) 伊藤忠テクノソリューションズ(株) ダイキン情報システム(株) (株)リンクレオ
------------------	---	--

※リーダー ※サブリーダー

研究概要

プロセス改善の必要性を論じる上で、その効果を明確に示すことが非常に重要となる。また、プロセスに基づいたプロジェクト運営に携わるプロジェクトメンバーにとって、個々のプロセスの必要性を十分に理解しているかどうか、プロセス実施の効果に大きな影響を与える。つまり、必要性を理解できないプロセスからは十分な効果を得られない。

一方で、プロセスの定義や改善に携わる EPG(Engineering Process Group)の立場で考えると、プロジェクト側で抱えるプロダクトそのものの品質に対して、『プロセス改善にどのような効果を期待するのか』を明確に理解した上で改善を実施する必要がある。改善の本来的目的は、プロセスの品質を向上させることだけでなく、プロダクト品質を保つための基盤を築くことである。

本研究では、まずプロセス品質とプロダクト品質の相関に着目し、プロジェクト側で発生する不具合事象に対して、プロセス視点での真因を分析することで、プロセスの改善箇所を導き出す手法を定義した。次に、EPGとプロジェクトの現場との協調によって適切なフィードバックを確立できる仕組みを提案した。

SQiP
Software Quality Profession
日科技連

SQiPソフトウェア品質ライブラリ (略称: SQiPライブラリ)

SQuBOK分類検索 フリーワード検索

10 件の資料が見つかりました。

- + 1 ソフトウェア品質の基本概念 (17)
- + 1.1 品質の概念 (10)
 - 1.1.1 品質の定義(品質の考え方の実遷) (2)
 - 1.1.2 ソフトウェア品質モデル (3)
 - 1.1.3 メンテナビリティ(保守性) (0)
 - 1.1.4 リリアビリティ(信頼性) (0)
 - 1.1.5 セキュリティ (1)
 - 1.1.6 ユーザビリティ (5)
 - 1.1.7 デベンダビリティ (0)
 - 1.1.8 セーフティ (0)
- + 1.2 品質のマネジメントの概念 (6)
- + 1.3 ソフトウェアの品質マネジメントの特徴 (4)
- + 2 組織レベルのソフトウェア品質マネジメント (34)

現場で使える品質評価手法の研究 詳細を見る

ダウンロード数: 44回

SQuBOK分類:
1.1.1 品質の定義(品質の考え方の実遷)、1.1.2.1 ソフトウェア製品の品質に関する規格 (ISO/IEC 9126シリーズ)、2.2.1.1.4 V字モデル、3.1.2 プロダクトマトリクス

年度: 2005年 **分科会:** 第5分科会「テスト」

執筆者: 荻原 俊彦(アンリウエンジニアリング)、相原 尚子(サイボウズ)、白山 新一(富士通北陸システムズ)、町田 欣史(NTTデータ)、宇野 也寸志(ダイキン工業)、伊藤 史伸(アールゴ21)

紹介文:
ISO 9126などの品質特性を、実際の現場でどのように使えばいいのの一方策が提案されています。通常は外部品質特性のみ着目されがちですが、内部品質特性も使用されており、開発する立場が考えねばならないことも組み込まれています。使用する際は、プロジェクトごとに品質特性の捉え方は異なるので、チェック項目と特性のリンクを再考し、チェックリストの補足も、プロジェクトにあった形にすると、より使いやすいもの



理由6. 仲間と多様な視点

- 多様な視点と気づき
- 強み、弱み
- 組織を超えた仲間



理由4. 1年間の取り組みと実践サポート

理由5. 提言や知識体系構成に向けたまとめと論文

実践

問題
発見

解決
手段

理由6. 仲間と多様な視点

理由2. 実証済み品質知識体系に基づく学習・研究

理由3. 扱う領域と取り組みの広さ

理由1. プロフェッショナルコミュニティからの指導陣と特別講義

